

現地を訪問して想うこと

2012年 産業社会学部卒

森園夏望

2011年3月11日、震災当時は就職活動で立命館大学の梅田オフィスにいました。いつもの地震かと思いきや、伝えられる情報は日本とは思えない状況で、何が起きたのかを理解するまでに時間がかかりました。それからは東北に訪問して実際に見て感じて知りたいと思いながらもなかなか機会がなく、今回東北応援ツアーの存在を知り関西在住だとなかなか伝わってこない、同じ日本で起きたことを知る良い機会だと思い参加しました。

今回の訪問でマスメディアの情報だけでは得られない生の声をたくさん知ることができました。震災当時、津波が来て車で逃げようとしているとき、渋滞で進まなかった原因が前の方の人は車を捨てて逃げていたという話や逆走をして人に当たった話など、震災当時は本当に地獄絵図のようだったのだと感じました。また、三陸鉄道の震災列車に乗車して震災当時の話を聞いて直接見ることで、地形や建物によって被災の度合いが大きく違うということや過去の震災での経験が良いように生かされているときもあれば、地形も変化するため悪影響を与えているということもあったのだと感じました。そして震災直後は皆が必死で、冷静でいたつもりでも、ショートケーキを見て彩りを感じて自分も被災者だったということに気付いた、という話のように一人ひとり無意識で被災者だったのではと思いました。

また、復興についての話を聞いていて特に印象に残ったのは、人が足りないという話でした。様々な人に話をさせていただきましたが、口を揃えて話されていたのが、人が足りなくて復興が思うように進まないということでした。やはり震災後に移り住んでしまっていることが多く、時間も経っているので帰ってくるのが厳しいようです。ボランティアについても時間の経過とともに減少しているようで復興に時間がかかる原因だと感じました。

ツアー全体を通して、被災地が復興したとは到底言い難い状況でした。このあたり一帯に建物があったのです、という話を聞いてもあまりにすべてが平地になっていて想像が付きませんでした。ただ、元々の姿を知っている人から見れば本当に街の姿が一変したのだということはとても感じることができました。

自分たち被災者のことは忘れられているのではないかと心配している人たちがいるという話を聞き、そんなことはありませんと伝えかけたのですが、実際行動を起こさないと忘れていと同義なのかもしれません。忘れることはないですが、動かないと意味がないので、まずは今回訪問して感じたことを自分の周りの人に伝え、周りの人からも風化させないようにします。そして次は岩手県をはじめ東北地方へボランティアとして訪れたり、東北を旅行したりすることで改めて現状を感じに行こうと考えています。

今回は東北応援ツアーに参加させていただくことで多くのことを知ることができ、考えることができました。本当にありがとうございました。